

東日本大震災に係る支援活動報告（石川県 第1班）

（1）支援先自治体及び状況

- ・支援先自治体
宮城県塩竈市
- ・全体的な被災状況
担当地区は、市の中心部で、汚水幹線も通っており、重交通が多い。
津波の被害を受けており、路上に家財道具のゴミ等が積み上げられていた。

（2）支援人数

- ・石川県 2名（土木1名、事務1名）
- ・金沢市 3名（土木3名）

（3）支援期間

出発日：3月23日（水）
調査日：3月24日（木）～3月28日（月） 5日間
帰着日：3月29日（火）

（4）下水道管渠の状況

被災状況は、管渠やマンホールの構造物の損傷はわりと少ないが、ポンプ場の機能が停止しているため、滞水箇所が多い。



(5) 一次調査の活動状況

○調査概要

管渠延長 $L=11.9\text{ km}$ 、584 スパン

被災マンホール数 100箇所（人孔内の滞水のものも含む）

○作業の内容

- ・概ね3箇所に1箇所の割合で人孔の蓋を開け、内部を点検。
- ・被害がみられる場合は間隔をつめる。
- ・人孔内に滞水がある場合は、水面から蓋の上部までの高さを測る。
- ・人孔に破損がある場合は、状況を記録する。

○活動状況写真



(6) 支援活動を通しての感想

当地は宮城県の海岸部の市であり、支援に行く前はかなり悲惨な状況を想像して赴きましたが、死者・行方不明者が多かった市町村に比べると人的被害が少なかった分、不幸中の幸いだったのかなと感じました。

しかし、街中に積み上げられたがれきの山やガソリンスタンドに並ぶ人たちによる長蛇の列を見ると、今後の復興に向けて大変な思いをされるであろうと思い、精一杯応援したいという気持ちに駆られました。

私たちの支援は、ほんの微力なものだとは思いますが、少しでも当地の復興の役に立てたのではないかという思いを持っており、ほっとしております。今後も被災地の皆さんへの復興に向けた一助になるよう努めていきたいと思っています。